



Cisco Unified Reporting アドミニストレーションガイドリリース 11.0(1)

初版：2015年01月22日

シスコシステムズ合同会社

〒107-6227 東京都港区赤坂9-7-1 ミッドタウン・タワー

<http://www.cisco.com/jp>

お問い合わせ先：シスコ コンタクトセンター

0120-092-255（フリーコール、携帯・PHS含む）

電話受付時間：平日 10:00～12:00、13:00～17:00

<http://www.cisco.com/jp/go/contactcenter/>

【注意】 シスコ製品をご使用になる前に、安全上の注意（www.cisco.com/jp/go/safety_warning/）をご確認ください。本書は、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。また、契約等の記述については、弊社販売パートナー、または、弊社担当者にご確認ください。



目次

Cisco Unified Reporting Web アプリケーション 1

- 統合されたデータのレポート 1
- レポートの生成に使用するデータ ソース 1
- サポートされている出力形式 2

Unified Reporting へのアクセス 3

- 前提条件 3
 - システム要件 3
 - 必要なアクセス権限 4
- 管理インターフェイスからのログイン 4
- UI のコンポーネント 5

レポートの管理 7

- サポートされているレポート 7
 - Cisco Unified Communications Manager のレポート 7
 - IM and Presence サービス レポート 10
- レポートの説明の表示 12
- 新規レポートの作成 12
- 保存済みレポートの表示 13
- 新しいレポートのダウンロード 14
- 保存済みレポートのダウンロード 15
- レポートのアップロード 16



第 1 章

Cisco Unified Reporting Web アプリケーション

- 統合されたデータのレポート, 1 ページ
- レポートの生成に使用するデータ ソース, 1 ページ
- サポートされている出力形式, 2 ページ

統合されたデータのレポート

Cisco Unified Communications Manager および Cisco Unified Communications Manager IM and Presence サービス コンソールからアクセスする Cisco Unified Reporting Web アプリケーションは、トラブルシューティングまたはクラスタ データの調査のための統合レポートを生成します。



(注) 特に指定のない限り、このマニュアルの情報、注記、手順は Cisco Unified Communications Manager と IM and Presence サービスに適用されます。

このツールは、クラスタ データのスナップショットを簡単に作成する方法を提供します。このツールは、既存のソースからのデータの収集、データの比較、および異常の報告を行います。Cisco Unified Reporting でレポートを生成すると、レポートでは、1 台以上のサーバにある 1 つ以上のソースからのデータを結合して、1 つの出力ビューを作成します。たとえば、クラスタ内の全サーバの *hosts* ファイルを表示するレポートを参照できます。

Cisco Unified Reporting Web アプリケーションは、インストール時にクラスタ内のすべてのサーバに展開されます。レポートは、データベース レコードから生成されます。

レポートの生成に使用するデータ ソース

このアプリケーションでは、パブリッシャサーバと各サブスクリバサーバに格納されている次のいずれかのソースから情報を取り込みます。

- RTMT カウンタ
- CDR_CAR (Cisco Unified Communications Manager のみ)
- Cisco Unified Communications Manager DB (Cisco Unified Communications Manager のみ)
- IM and Presence DB (IM and Presence サービスのみ)
- ディスク ファイル
- OS API 呼び出し
- ネットワーク API 呼び出し
- prefs
- CLI
- RIS

レポートには、レポートの生成時点でアクセスできるすべてのアクティブなクラスター ノードのデータが取り込まれます。パブリッシャ サーバのデータベースが停止している場合は、アクティブなノードのレポートを生成できます。System Reports リストにある Report Descriptions レポートは、レポートの情報ソースを提供します。

サポートされている出力形式

このリリースでは、レポートの HTML 出力をサポートしています。Cisco Unified Reporting では、レポート名と日付と時刻のスタンプによってレポートを識別できます。このアプリケーションでは、ユーザが表示できるように最近のレポートのローカル コピーが保管されます。「新しいレポートのダウンロード」で説明しているように、最近のレポートのローカル コピーまたは新しいレポートをハードディスクにダウンロードすることができます。レポートをダウンロードするときは、区別するためにダウンロードするファイルの名前を変更するか、別のフォルダに保存できます。

関連トピック

[レポートの管理, \(7 ページ\)](#)



第 2 章

Unified Reporting へのアクセス

- [前提条件, 3 ページ](#)
- [管理インターフェイスからのログイン, 4 ページ](#)
- [UI のコンポーネント, 5 ページ](#)

前提条件

Cisco Unified Reporting にアクセスする前に、前提条件を満たしていることを確認します。

システム要件

Cisco Tomcat Service

Cisco Unified Reporting は、Cisco Tomcat サービス上でアプリケーションとして実行されます。このアプリケーションは、Cisco Unified Communications Manager および IM and Presence サービスのインストール時にアクティブになります。これらの製品がクラスタ内のすべてのサーバで稼働していることを確認します。

HTTPS

レポート サブシステムでは、HTTPS 経由で RPC メカニズムを使用して他のサーバから情報を収集します。レポートが正常に生成されるように、サーバで HTTPS ポートが開いていて、Cisco Tomcat サービスを実行していることを確認します。

HTTPS を有効にするには、接続プロセス中にサーバ識別用の証明書をダウンロードする必要があります。現在のセッションだけにサーバ証明書を使用するか、サーバでの現在のセッションと将来のセッションのセキュリティを確保するために信頼フォルダ（ファイル）に証明書をダウンロードすることができます。信頼フォルダには、すべての信頼済みサイトの証明書を保存します。HTTPS の詳細については、『*Cisco Unified Communications Manager Administration Guide*』の「Introduction」の章を参照してください。

アプリケーションにアクセスするには、ブラウザ ウィンドウの管理インターフェイスにアクセスします。Cisco Unified Reporting では、HTTPS を使用してブラウザとのセキュアな接続を確立します。

Web ブラウザ

Cisco Unified Communications Manager の Cisco Unified Reporting は、次のオペレーティング システム ブラウザをサポートしています。

- Microsoft Windows XP SP3 上で実行している場合は、Microsoft Internet Explorer (IE) 7
- Microsoft Windows XP SP3、Microsoft Vista SP2、Microsoft Windows 7 で実行している場合は、Microsoft Internet Explorer (IE) 8
- Microsoft Windows XP SP3、Microsoft Vista SP2 または Apple Mac OS X 上で実行している場合は、Firefox 3.x
- Apple Mac OS X 上で実行している場合は、Safari 4.x

IM and Presence サービスの場合は、Microsoft Internet Explorer バージョン 6.0 以降のリリースか Mozilla Firefox バージョン 3.0 以降を使用して Cisco Unified IM and Presence Reporting インターフェイスにアクセスします。それ以外のブラウザはサポートされません。

必要なアクセス権限

Cisco Unified Reporting アプリケーションでは、Cisco Tomcat サービスを使用してユーザを認証してから、Web アプリケーションへのアクセスを許可します。権限のあるユーザだけが Cisco Unified Reporting アプリケーションにアクセスできます。Cisco Unified Communications Manager の場合、デフォルトでは、Standard CCM Super Users グループの管理者ユーザだけが Cisco Unified Reporting にアクセスして、レポートを表示、作成できます。IM and Presence サービスの場合は、Standard CUReporting グループのユーザが Cisco Unified Reporting にアクセスできます。

権限のあるユーザは、Cisco Unified Reporting ユーザ インターフェイスを使用して、レポートの表示、新しいレポートの生成、およびレポートのダウンロードを実行できます。



- (注) Cisco Unified Communications Manager の場合、Standard CCM Super Users グループの管理者ユーザは、アプリケーションのいずれかにシングル サインオンすることにより、Cisco Unified Reporting を含む Cisco Unified Communications Manager Administration ナビゲーション メニューで管理アプリケーションにアクセスできます。

管理インターフェイスからのログイン

次のいずれかの手順を実行し、管理インターフェイスから Cisco Unified Reporting にログインします。

- Cisco Unified Communications Manager の場合は、管理インターフェイスのナビゲーションメニューから [Cisco Unified Reporting] を選択します。
- IM and Presence サービスの場合は、IM and Presence 管理インターフェイスのナビゲーションメニューから [Cisco Unified IM and Presence Reporting] を選択します。

はじめる前に

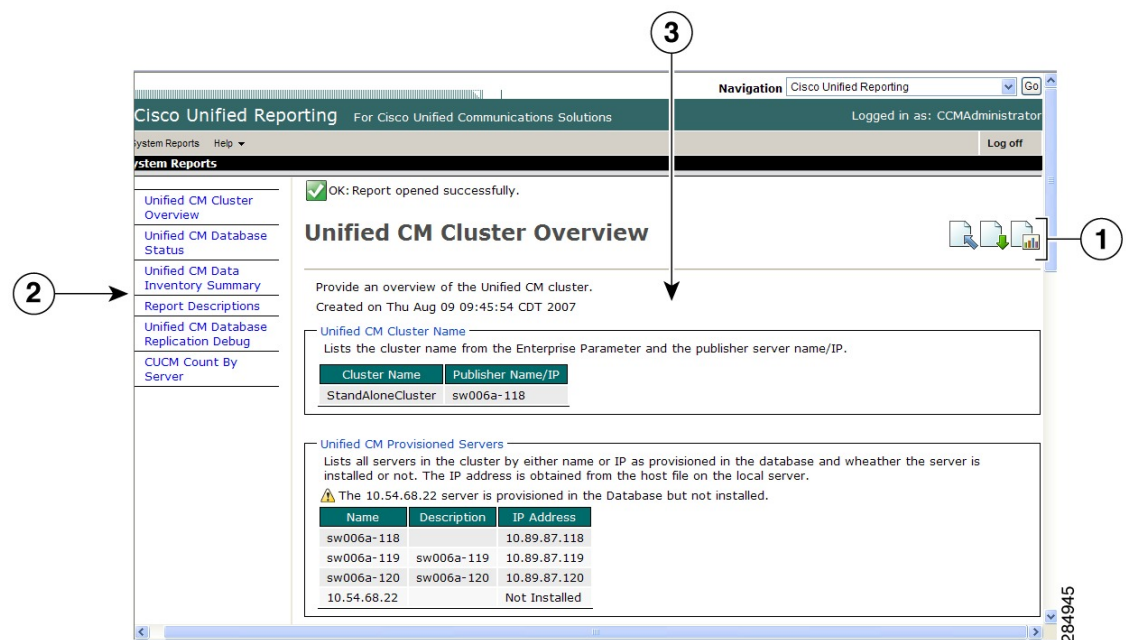
Cisco Unified Reporting アプリケーションへのアクセスが許可されていることを確認します。

Cisco Unified Reporting にログインすると、各ユーザの最後に成功したシステム ログインと最後に失敗したシステム ログインが、ユーザ ID、日時、IP アドレスとともに、[Cisco Unified Reporting] ウィンドウに表示されます。

UI のコンポーネント

次の図に、Cisco Unified Reporting の UI のコンポーネントを示します。

図 1: UI のコンポーネント



- 1 [アップロード (Upload)]、[ダウンロード (Download)]、[生成 (Generate)] アイコン
- 2 レポートリスト
- 3 レポートの詳細



(注) レポートのカテゴリ、使用できるレポート、およびレポートのデータは、リリースによって異なります。



第 3 章

レポートの管理

- [サポートされているレポート, 7 ページ](#)
- [レポートの説明の表示, 12 ページ](#)
- [新規レポートの作成, 12 ページ](#)
- [保存済みレポートの表示, 13 ページ](#)
- [新しいレポートのダウンロード, 14 ページ](#)
- [保存済みレポートのダウンロード, 15 ページ](#)
- [レポートのアップロード, 16 ページ](#)

サポートされているレポート

このセクションでは、Cisco Unified Communications Manager および Cisco Unified Communications Manager IM and Presence サービスでサポートされているレポートの詳細について説明します。Cisco Unified Reporting では、レポート名と日付と時刻のスタンプによってレポートを識別できます。Cisco Unified Reporting では、ユーザが表示できるように最近のレポートのローカルコピーが保管されます。

Cisco Unified Communications Manager のレポート

次の表に、Unified Communications Manager をインストールした後に Cisco Unified Reporting に表示されるシステム レポートの種類を示します。

表 1 : Cisco Unified Reporting で表示される Cisco Unified Communications Manager レポート

レポート	説明
レポートの説明 (Report Descriptions)	表示しているレポートに関するトラブルシューティング情報と詳細情報を提供します。

レポート	説明
セキュリティ診断ツール (Security Diagnostic Tool)	セキュリティ コンポーネントに関する情報の要約を提供します。
Unified CM クラスタの概要 (Unified CM Cluster Overview)	<p>Cisco Unified Communications Manager クラスタの概要を提供します。このレポートには、次の詳細情報が含まれています。</p> <ul style="list-style-type: none"> • クラスタにインストールされている Cisco Unified Communications Manager または IM and Presence サービスのバージョン • クラスタ内のすべてのサーバのホスト名または IP アドレス • ハードウェア詳細情報の要約
Unified CM データ サマリ (Unified CM Data Summary)	Cisco Unified Communications Manager Administration のメニュー構造に従って、Cisco Unified Communications Manager データベースにあるデータの要約を提供します。たとえば、3つのクレデンシャル ポリシー、5つの会議ブリッジ、10のシェアードライン アピアランスを設定した場合、このレポートに含まれる情報のタイプを確認できます。
Unified CM データベース複製のデバッグ (Unified CM Database Replication Debug)	<p>データベース複製のためのデバッグ情報を提供します。</p> <p>ヒント このレポートを生成すると、CPU の使用率が急増し、生成するのにクラスタ内のサーバごとに最大 10 秒かかる可能性があります。</p>
Unified CM データベース ステータス (Unified CM Database Status)	Cisco Unified Communications Manager データベースのヘルス スナップショットを提供します。アップグレードする前にこのレポートを生成して、データベースが正常であることを確認します。
Unified CM デバイス カウント サマリ (Unified CM Device Counts Summary)	Cisco Unified Communications Manager データベースに存在するデバイスの数を、モデルおよびプロトコル別に示します。
Unified CM デバイス 配信 サマリ (Unified CM Device Distribution Summary)	クラスタに分散されたデバイスの要約を提供します。たとえば、このレポートは、プライマリ ノード、セカンダリ ノード、ターシャリ ノードなどに関連付けられているデバイスを示します。
Unified CM ディレクトリ URI および GDPR 重複 (Unified CM Directory URI and GDPR Duplicates)	システムで重複ユーザディレクトリ URI、学習された Directories URI、学習された数と学習されたパターンの詳細が記載されています。

レポート	説明
Unified CM Extension Mobility	Cisco Extension Mobility の使用状況の要約を提供します。たとえば、Cisco Extension Mobility ユーザーがログインしている電話機の数、Cisco Extension Mobility に関連付けられたユーザーなどです。
Unified CM GeoLocation ポリシー (Unified CM GeoLocation Policy)	GeoLocation 論理パーティションポリシーマトリクスのレコードの一覧を提供します。
Unified CM GeoLocation ポリシーとフィルタ (Unified CM GeoLocation Policy with Filter)	選択した GeoLocation ポリシーに対する、GeoLocation 論理パーティションポリシーマトリクスのレコードの一覧を提供します。
電話機に関連付けられていない Unified CM 回線 (Unified CM Lines Without Phones)	電話機に関連付けられていない回線の一覧を提供します。
Unified CM 複数回線デバイス (Unified CM Multi-Line Devices)	複数ライン アピラランスを使用する電話機の一覧を提供します。
Unified CM 電話機カテゴリ (Unified CM Phone Category)	ユニバーサル デバイス テンプレートを使用して特定のカテゴリの電話機モデルの一覧を示します。社員のセルフプロビジョニングをイネーブルにすると、各カテゴリのテンプレートを提供することによって、電話機のこれらのカテゴリのいずれか、またはすべてを許可することを選択できます。
Unified CM 電話機能リスト (Unified CM Phone Feature List)	Cisco Unified Communications Manager Administration のデバイスタイプごとにサポートされる機能の一覧を提供します。
Unified CM 電話機ロケールインストーラ (Unified CM Phone Locale Installers)	インストールされている電話ロケール パッケージでサポートされる Cisco Unified IP Phone ファームウェア バージョンのリストを提供します。
ロードに不整合が発生した Unified CM 電話機 (Unified CM Phones With Mismatched Load)	ファームウェア ロードに不整合が発生したすべての電話機の一覧を提供します。
回線が関連付けられていない Unified CM 電話機 (Unified CM Phones Without Lines)	Cisco Unified Communications Manager データベース内の、関連付けられた回線を持たないすべての電話機の一覧を提供します。

レポート	説明
Unified CM シェアドライン (Unified CM Shared Lines)	Cisco Unified Communications Manager データベース内の、少なくとも1つのシェアドライン アピランスを使用しているすべての電話機の一覧を提供します。
Unified CM テーブルカウントサマ リ (Unified CM Table Count Summary)	データベースを中心にデータを表示します。このレポートは、データベース スキーマを理解している管理者または AXL API 開発者の役に立ちます。
Unified CM ユーザデバイスカウ ント (Unified CM User Device Count)	関連するデバイスに関する情報を提供します。たとえば、このレポートは、ユーザのいない電話機の数、1つの電話機を持つユーザの数、複数の電話機を持つユーザの数を一覧表示します。
プライマリ内線番号を共有して いる Unified CM ユーザ (Unified CM Users Sharing Primary Extensions)	システムのプライマリ内線番号を共有するユーザのリストを提供します。
Unified CM VG2XX ゲートウェ イ (Unified CM VG2XX Gateway)	ゲートウェイ エンドポイントのセキュリティ プロファイルの概要を示します。
Unified CM ボイスメール (Unified CM Voice Mail)	Cisco Unified Communications Manager Administration のボイスメッセージング関連の設定の要約を提供します。たとえば、このレポートは、設定されたボイスメールポートの数、メッセージ待機インジケータの数、設定されたボイスメッセージプロファイルの数、ボイスメッセージプロファイルに関連付けられたディレクトリ番号の数、などを示します。
Unified 内部アクセス レベルマ トリックス (Unified Confidential Access Level Matrix)	内部アクセス レベル マトリックスに関するすべての情報が提供されます。

IM and Presence サービス レポート

次の表に、Unified Communications Manager で IM and Presence サービス をインストールした後に Cisco Unified Reporting に表示されるシステム レポートの種類を示します。



(注) リリース 10.0(1) 以降では、Cisco Unified Communications Manager ノードから IM and Presence クラスタ情報を入手できます。[Unified Communications Manager] で、[Cisco Unified Reporting] > [システム レポート (System Reports)] > [Unified CM クラスタの概要 (Unified CM Cluster Overview)] を選択します。

次の表にあるレポートの種類を表示および生成できます。

表 2 : Cisco Unified Reporting に表示される IM and Presence サービス レポート

レポート	説明
レポートの説明 (Report Descriptions)	表示しているレポートに関するトラブルシューティング情報と詳細情報を提供します。このレポートでは、レポート、各情報グループ、各データ項目、データ ソース、関連する問題の現象、および対処方法を説明します。
IM and Presence Database Replication Debug (IM and Presence データベース複製のデバッグ)	データベース複製のためのデバッグ情報を提供します。 ヒント このレポートを生成すると、CPU の使用率が急増し、生成するのにクラスタ内のサーバごとに最大 10 秒かかる可能性があります。
IM and Presence データベースステータス (IM and Presence Database Status)	IM and Presence サービス データベースのヘルス スナップショットを提供します。アップグレードする前にこのレポートを生成して、データベースが正常であることを確認します。
IM and Presence テーブル カウント サマリ (IM and Presence Table Count Summary)	データベースを中心にデータを表示します。このレポートは、データベース スキーマを理解している管理者または AXL API 開発者の役に立ちます。
プレゼンス設定レポート (Presence Configuration Report)	IM and Presence サービス ユーザに関する設定情報を提供します。 <ul style="list-style-type: none"> • Cisco Unified Communications Manager から同期されたユーザ • IM and Presence サービスが有効なユーザ • Microsoft リモート通話コントロールが有効なユーザ • IM and Presence サービスの予定表情報が有効なユーザ ソート可能なカラムのユーザのリストを表示するには、[詳細表示 (View Details)] をクリックします。

レポート	説明
プレゼンス使用レポート (Presence Usage Report)	ログインした XMPP クライアントとサードパーティ API の使用情報を提供します。 ソート可能なカラムの XMPP クライアントとサードパーティ API のリストを表示するには、[詳細表示 (View Details)] をクリックします。
プレゼンス制限警告レポート (Presence Limits Warning Report)	接続またはウォッチャの設定の制限値の最大数を満たしているか、超えてしまったユーザに関する情報を提供します。 ソート可能なカラムのユーザのリストを表示するには、[詳細表示 (View Details)] をクリックします。

レポートの説明の表示

Cisco Unified Reporting では、レポートのヘルプが用意されています。[レポートの説明 (Report Descriptions)] リンクでは、レポート、各情報グループ、各データ項目、データソース、関連する問題の現象、および対処方法を説明します。



(注) その他のレポートの問題については、TAC にお問い合わせください。

手順

- ステップ 1 [システム レポート (System Reports)] を選択します。
- ステップ 2 レポートのリストで [レポートの説明 (Report Descriptions)] リンクを選択します。
(注) IM and Presence サービス レポートを選択したときに再ログインを要求された場合は、Cisco Unified Communications Manager の管理者ログイン クレデンシャルを再入力します。
- ステップ 3 [レポートの生成 (Generate Report)] アイコンを選択します。
レポートが生成され、表示されます。

新規レポートの作成

新しいレポートを生成して、表示できます。

はじめる前に

1 台以上のサーバで Cisco Tomcat サービスが実行されていて、レポートの表示に関してサポートされている Web ブラウザを使用していることを確認します。

レポートを生成するのに非常に時間がかかる場合、または CPU 時間が非常に多くなる場合は、アプリケーションによって通知されます。レポートの生成中は経過表示バーが表示されます。新しいレポートが表示され、日付と時刻が更新されます。

手順

-
- ステップ 1 メニューバーから [システム レポート (System Reports)] を選択します。
 - ステップ 2 レポートを選択します。
(注) IM and Presence サービス レポートを選択したときに再ログインを要求された場合は、Cisco Unified Communications Manager Administration のログイン クレデンシャルを再入力します。
 - ステップ 3 [レポート (Reports)] ウィンドウで [レポートの生成 (Generate Report)] (棒グラフ) アイコンを選択します。
 - ステップ 4 [詳細の表示 (View Details)] リンクを選択して、自動的に表示されないセクションの詳細情報を表示します。
-

次の作業

レポートで、項目に対するデータ チェックが失敗したことが示された場合は、[レポートの説明 (Report Descriptions)] レポートを選択して、トラブルシューティング情報と対処方法を確認します。レポートの説明レポートはデータベースから動的に生成されるので、新たに、新規のレポートの説明レポートを生成することもできます。

保存済みレポートの表示

既存のレポートのコピーを表示できます。



-
- (注) Cisco Unified Reporting アプリケーションでは、フレッシュ インストールまたはアップグレード時に最新のレポートのローカル コピーが保存されません。
-

はじめる前に

1 台以上のサーバで Cisco Tomcat サービスが実行されていて、レポートの表示に関してサポートされている Web ブラウザを使用していることを確認します。

手順

-
- ステップ 1 メニューバーから [システム レポート (System Reports)] を選択します。
 - ステップ 2 レポート リストから表示するレポートを選択します。
 - ステップ 3 レポート名のリンクを選択します (日付と時刻が記録されています)。
 - ステップ 4 [詳細の表示 (View Details)] リンクを選択して、自動的に表示されないセクションの詳細情報を表示します。
-

次の作業

新しいレポートまたは保存済みレポートをダウンロードします。

レポートで、項目に対するデータ チェックが失敗したことが示された場合は、[レポートの説明 (Report Descriptions)] レポートを選択して、対処方法に関するトラブルシューティング情報を確認します。

新しいレポートのダウンロード

新しいレポートをダウンロードする場合、レポートはローカルハードドライブに保存されます。レポートをダウンロードすると、raw XML データ ファイルがハードドライブにダウンロードされます。

手順

-
- ステップ 1 新しいレポートを生成します。
 - ステップ 2 新しいレポートが表示されたら、[レポート (Reports)] ウィンドウで [レポートのダウンロード (Download Report)] (緑色の矢印) アイコンを選択します。
(注) ドキュメントをダウンロードする前に、[詳細の表示 (View Details)] リンクをクリックしてレポートの詳細情報を表示する必要はありません。データは、ダウンロードしたファイルで検出されます。
 - ステップ 3 [保存 (Save)] を選択して、指定したディスク上の場所にファイルを保存します。ファイル名またはハードディスク上のファイルの保存場所を変更するには、新しい場所を入力するか、ファイルの名前を変更します (任意)。ダウンロード中は経過表示バーが表示されます。ハードディスクにファイルがダウンロードされます。
 - ステップ 4 ダウンロードが完了したら、[開く (Open)] を選択して XML レポートを開きます。
(注) XML ファイルの内容を変更しない場合、レポートは画面で正しく表示されない場合があります。
-

次の作業

ダウンロードされたレポート ファイルをブラウザで表示するには、ファイルをサーバにアップロードします。



(注) テクニカルサポートを受けるときに、ダウンロードしたファイルを電子メールに添付するか、ファイルを別のサーバにアップロードできます。

保存済みレポートのダウンロード

保存済みレポートをダウンロードする場合、ダウンロードされたレポートはローカルハードドライブに保存されます。レポートをダウンロードすると、raw XML データ ファイルがハードディスクにダウンロードされます。

手順

- ステップ 1 既存のレポートの詳細情報を開いて、表示します。
- ステップ 2 [レポート (Reports)] ウィンドウで [レポートのダウンロード (Download Report)] (緑色の矢印) アイコンを選択します。
- ステップ 3 [保存 (Save)] を選択して、指定したディスク上の場所にファイルを保存します。ファイル名またはハードディスク上のファイルの保存場所を変更するには、新しい場所を入力するか、ファイルの名前を変更します (任意)。ダウンロード中は経過表示バーが表示されます。ハードディスクにファイルがダウンロードされます。
- ステップ 4 ダウンロードが完了したら、[開く (Open)] を選択して XML レポートを開きます。

(注) XML ファイルの内容を変更しない場合、レポートは正しく表示されない場合があります。

次の作業

ダウンロードされたレポート ファイルをブラウザで表示するには、ファイルをサーバにアップロードします。



(注) テクニカルサポートを受けるときに、ダウンロードしたファイルを電子メールに添付するか、ファイルを別のサーバにアップロードできます。

レポートのアップロード

ダウンロードされたレポートをブラウザ ウィンドウで表示するには、レポートをサーバにアップロードする必要があります。

はじめる前に

ハード ドライブにレポートをダウンロードします。

手順

-
- ステップ 1 メニュー バーから [システム レポート (System Reports)] を選択します。
 - ステップ 2 レポートにアクセスすると、[レポート (Reports)] ウィンドウに [レポートのアップロード (Upload Report)] アイコン (青色の矢印) が表示されます。
 - ステップ 3 [レポートのアップロード (Upload Report)] アイコンを選択します。
 - ステップ 4 .xml ファイルの場所を指定するには、[参照 (Browse)] を選択して、ハード ドライブ上のファイルの場所に移動します。
 - ステップ 5 [アップロード (Upload)] を選択します。
 - ステップ 6 [続行 (Continue)] を選択して、アップロードしたファイルをブラウザ ウィンドウに表示します。
-

次の作業

アップグレードするときにアップロードしたレポートと新しく生成したレポートを並べて比較できます。